

「食品中の放射性物質対策に関する説明会」について

大 房 剛

2012年1月16日、東京・永田町にある星陵会館で表記のような会が厚労省などの主催で開催されました。それに参加致しました結果をまとめました。

☆ 説明会の内容

最初に、食品安全委員会から「食品中の放射性物質による健康影響について」、厚労省からは、「放射性物質の新たな基準値について」、および「放射性物質の検査について」、農水省からは「農業生産現場における対応について」などの説明があり、後半には出席者との意見交換が行われました。

☆ 各部門からの説明

それぞれ短い時間での説明でしたが、すでに新聞紙上などで記事になっていた内容がほとんどでした。その中で以下の2点のみを取り上げておきます。

今回の規制対象

今回の規制対象は、福島原発事故によって放出された放射性物質のうち、半減期1年以上の放射性核種全体（セシウム134、セシウム137、ソトリンチュウム90、プルトニウム、ルテニウム）になりました。

ために、半減期が短く、すでに検出が認められない放射性ヨウ素などは基準値が設定されていません。

製造・加工食品の基準値適用の考え方

乾燥きのこ類・**乾燥海藻類**・乾燥魚介類・乾燥野菜など原材料を乾燥させ、水戻しを行ってから食べる食品については、食用の実態を踏まえ、**原材料の状態と食べる状態（水戻しを行った状態）で一般食品の基準値を適用する。**

注） のり、煮干し、するめ、干しぶどうなど原材料を乾燥させ、そのまま食べる食品は、原材料の状態、製造、加工された状態（乾燥した状態）それぞれで一般食品の基準値を適用する。

とされました。以上から海苔は乾燥した状態のままですが、ワカメ・コンブ・ヒジキなどは、水戻しした状態での計測となりますので、大分楽になります。

ただ、今後「水戻し」の際の条件が具体的に示される可能性があります。今後の動きに注意が必要です。

☆ 意見交換の概要

出席者からは活発な意見が出されていました。生協関係者・X X放射能から子供を守る会会員などからの発言でしたので、発言者の大半が女性でした。

そのため、科学的な根拠のある数字では納得できず、より厳しい基準を要求していたり、経過処置の期間をより短くすべきである、といった内容がほとんどでした。

たしかに、乳用児などの場合には、「影響を受けやすい」とされているのですから、低い方がよいことは確かですが、規制を考える側からすれば、確実な報告が少ない以上手元にある文献からの引用になってしまいます。お母さん方からすれば、「それで本当に安全なのか？」ということになってしまいます。

このような説明会は、今回を最初に 2 月末まで各地で開催され、そのたびに種々の方々から意見が出されるでしょうから、多少の変更があるかも知れませんが、この規制は日本ばかりでなく、各国との調整も必要になる事項ですから、そのような面からの配慮も必要になるでしょう。

今回の意見交換を聞いて、一般消費者に納得して頂くのは非常に難しい、との印象でした。科学的に数値を挙げながら「安全だ」と説明しても、多くのお母様方は「それでも含まれているのだから・・・」と納得して頂けません。

1 月 15 日の夜に、NHKで「知られざる海洋汚染」と題した番組が放映されました。放出された放射能は、海底の底土に蓄積されており、場所によっては長期間にわたって影響し続ける可能性がある。特に、河川の河口付近では、上流域に降った雨によって土壌が汚染され、それが徐々に河川に流れ込み、下流域に運ばれ、海水の影響が現れる河口付近に沈殿し、底土に蓄積されてゆく、との内容でした。

セシウム 134 は、半減期が 2.1 年ですから、ここ 5 年間くらいは、放射線量がだんだんと減ってゆくでしょうが、それ以後は、半減期 30 年のセシウム 137 が残りますので、減少の速さは遅くなり、何時までも同じような値が続く状態になると考えられます。

その場合でも、底土に蓄積した放射能が、ゴカイなどに吸収され、それを食べる底魚に濃縮されて、高い値になる可能性はありますが、海水に含まれている量は僅かであり、その中で養殖されている海藻類に吸収される量も問題にならない範囲にとどまってくれるでしょうから、心配ないのですが、このような説明で消費者に納得して頂けるかどうかは問題です。「汚染された魚が生活していた場所で養殖されていた海藻だから・・・」と考えられてしまうと、説明のしようがなくなってしまいそうです。

良いお知恵がありましたら、お教え下さい。

なお、今回の説明会と同じ会が次のような日程で開催されます。

開催地	開催日	申し込み期限	開催地	開催日	申し込み期限
福島県	1 月 24 日	1 月 17 日	岩手県	2 月 10 日	2 月 3 日
福岡県	1 月 31 日	1 月 24 日	愛知県	2 月 20 日	2 月 13 日
宮城県	2 月 6 日	1 月 30 日	大阪府	2 月 28 日	2 月 21 日